

第2回大崎上島町地域協議会理事会報告

日 時：平成20年11月10日（月）13：00～16：00

場 所：木江ふれあい資料館

議 題：協議会運営及び地域力発掘支援モデル事業計画策定案検討

アドバイザー：目瀬岡山大学名誉教授（同行者児玉広島県土地改良事業団体連合会課長）

参加者：大崎上島町地域協議会理事（参加者最後尾記載）

ふれあい資料館は、月曜日は休館日であるが教育委員会の協力により開館してもらった。
目瀬先生に展示品を見ながら島の関係事項を説明、造船より生活品に興味を示された。

意見交換：

目瀬先生 過去担当された実例を参考に示されて、振興計画構想は簡潔に用紙2枚程度にまとめるのが好ましい。あまり煩雑にすると見にくいし、関連も見えにくい。

現在はおとな目線で、整理されているが、若者の目線も必要と考える。

過去の事業で「メルヘンの里・新庄」の振興にかかわった際協力してくれた女子学生に自分が描くメルヘンの色聞いてみたが、いろんな発想があり、新たな方向性につながる可能性もあるので、権伝馬ロマンについての模様や色を若者に確認する事及び各地区が競い合って、地域興しのしまづくり運動会（ロマンのしまづくり）を提案します。

今回は旧町の区域割に従って、構想書をまとめ、夢であってもその時々新たな構想を加えながら、実現に向けて結びつけることをアドバイスして戴きました。

質 疑：

Q：地域活性化について

A：現況に比べ①経済所得②生活文化③環境及び健康等が向上することを目指す。

地域の関係機関の役割分担で住民参画の計画を創り、地域資源を利用して目標・キャッチフレーズを明確にした総合的地域計画（問題の把握→ビジョンの構築→方策の展開）により、地域の所得・社会・環境等に付加価値を付け日常の行動を越えるもの。（ジャンプ）

Q：コミュニティの規模について

A：小学校の校区を考えている。

Q：高齢者＋小児の多機能地域密着型施設について

A：これから絶対必要な施設なので適当な場所・建物を活用する。

協議会打ち合わせ：

11月14日宮島・江波・阿賀現地調査及び22日上関町・周防大島現地調査参加者確認。

12月3日～5日鳥羽・紀州現地調査参加者は各団体2名梓巖守（理事が無理なら推薦者）

シンポジウム開催は準備期間が必要なので開催案にて検討

基調講演者については特に指名はなかったが、関係者に当たりをつけてみる、事業名が大きすぎるので「島の海と船」又は「大崎上島と海」等検討する必要あり、パネルディスカッションは90分程度必要では、権伝馬参加の子どもをパネラーに入れるのは如何等々の意見あった。

10日協議会参加者：

町議会—中村 広島商船—松島、田葉 商工会—道林 観光協会—横本
F F —永見、岡本 N P O—松浦、藤原、岡本、石倉、榎本

日時：平成20年11月11日（火）9：30～11：00

場所：海と島の歴史資料館（大望月邸）

議題：協議会運営及び地域力発掘支援モデル事業計画策定案検討

アドバイザー：目瀬岡山大学名誉教授（同行者児玉広島県土地改良事業団体連合会課長）

参加者：大崎上島町地域協議会理事（参加者最後尾記載）

皆さんが集まるまで、因幡屋狛犬及び説名板、権伝馬実物、資料等見学していただいた。

意見交換：

特産物を記入した方が望ましい。農産物が主で海産物が島の割には少ないので開発する必要あり、地磯には海藻や海葡萄等があると聞くので商船で調査をお願いしたい。

16日沖浦秋の豊漁祭で地物のエビや魚が販売されるが、手がかりがつかめると良い。

地域連携には青年や婦人の協力が必要、是非連携を記載すること。

高専には女子学生が1/3在学している、女子学生の意見を参考に出来ないか？

中学が統合され1校になるので、廃校になった施設の活用も構想に入れておきたい。

商船高専の施設及び設備等の活用及び学生の協力・連携が不可欠。

権伝馬PRに統一マークを創ってみてはどうか、

以上アドバイスを受けた事項を構想書に整理し、農水省の書式に従い計画書を作成するよう指示がありました。構想書は来週に計画策定書は12月上旬を目処に整理次第、土改連児玉課長に送付することにした。

協議会打ち合わせ：昨日に同じ（教育委員会高田氏、区長会福増氏電話連絡）

11日協議会参加者：

役場—吉本 観光協会—増本 商船高専—水井 N P O—岡本、石倉、榎本